

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年 3月 10日提出

所 属	職 名	氏 名
総合政策科学研究科	教授	武蔵 勝宏
研 究 題 目	議院内閣制における首相支配の比較研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究は、近年の日本の立法過程研究において、「強い首相と弱い国会」とされてきた首相の統治スタイルを小泉政権以降の内閣主導の立法過程において検証するとともに、こうしたイギリス型の首相政治が、2007年参議院選挙による衆参ねじれ現象のもとで、どのような構造変化をもたらしたかを比較政治的な視点から分析したものである。また、2009年政権交代後の民主党連立政権での政治主導型の立法過程が、従来の首相のリーダーシップや中核的執政に及ぼした影響を考察した。</p> <p>以下、本研究に関して公刊された成果について、列記する。</p> <p>武蔵勝宏「政権移行と立法過程の変容」『国際公共政策研究』14巻2号、2009年。</p> <p>武蔵勝宏「文民統制の変容と防衛省改革」『同志社政策科学研究』11巻2号、2009年。</p> <p>そのほか、研究テーマに関する経済団体での講演等を行った。</p>	